

今年度の活動

- みやぎの区民協議会総会／5月10日(火)
総会後はトークイベント「プロ野球球団のにぎわい創出とまちづくり」を開催しました。
- シンポジウム／7月20日(水)
テーマ「災害と風土・熊本地震を契機に考える一人ひとりの防災・減災」
- 第16回みやぎの区民活動表彰式／7月20日(水)
宮城野区でまちづくり活動に貢献した個人・団体を表彰します。
- 第26回納涼名刺交換会／7月20日(水)
お楽しみ抽選会や盛り上がるアトラクションを企画中。
- 第28回みやぎの・まつり／10月16日(日)
ステージ企画や展示・体験のほか、バルーンチャリティーなどの復興企画を実施します。
- 地域はっぴい子育てプロジェクト
／7月15日(金)、26日(火)、11月中
地域で楽しく子育てできるよう「ママらいふ手帳」を活用した講座や交流イベントを実施予定です。
- 第8回みやぎの大縁会(2～3月頃)
新しい「つながり」を発見するための気軽なお茶会です。

震災復興地元学事業 「未来につたえたいふるさと」

東日本大震災によって大きな被害を受けた宮城野区中野・岡田地区の、震災前から復興に至るまでの地域の人々の記憶と生活の証を記録し、地域の人々の心のふるさとを残すとともに、未来に伝承することを目的とした「震災復興地元学」事業として、2013年2月から活動をしています。メンバーはまちづくりや復興支援に携わる市民に、地元住民が加わって、高砂市民センターと宮城野区まちづくり推進課を事務局とし、入れ替わりもありますが常時10数名で活動してきました。活動の成果として、「未来につたえたいふるさと」と題した冊子のシリーズ[蒲生][岡田][港][西原][和田][町蒲生]の6冊を企画・編集・発行しました。いずれも地元の町内会や地域住民が編集に加わり、活き活きとした暮らしぶりや復興へかける想い、地域への愛情をたっぷり注ぎ込みました。また冊子制作のほかにも宮城野区中央市民センターのイベントでの冊子パネル展示や地元住民を交えてのトークライブ、メモリアル交流館での活動報告(編集こぼれ話トークライブ)なども実施し、中野・岡田地区を未来へ語り継ぐことを意識した、広がりを持続性のある活動を行っています。



みやぎの区民協議会だより

NO.23

みやぎの「イイね」と通信

年1回発行

～賑わいも新たに笑顔をつなげよう～



みやぎの区民協議会
会長 松坂 卓夫

この春、宮城野区の玄関口JR仙台駅の東西自由通路が拡幅され、東口につながる大規模商業施設もオープンしました。また、楽天Koboスタジアム宮城は、野球場で国内初の観覧車を設置するなど観戦の楽しみ方もいっそう増すこととなりました。

人々で賑わう仙台駅周辺から、様々な交流が生まれつつあるように、私たちみやぎの区民協議会も、東北福祉大学さまなど新たな会員団体をお迎えし、宮城野区の魅力を引き続きアピールしていきたいと思っております。当協議会は、「区民一人ひとりの創意と参加により、

やすらぎと希望をともに感じることで宮城野区をつくること」を目的に平成元年に設立されました。連合町内会をはじめ、商工・農業・福祉・文化・スポーツなど区内の様々な団体から構成されており、現在92団体に登録いただいております。

今年度も、各団体からの意見を活かした幅広い視野でのまちづくり活動に取り組んでまいります。そして、区民の皆様からの積極的なご参加・ご協力をいただけるよう、より一層の努力をしておりますので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

協賛いただいた企業等芳名 平成27年度 敬称略・五十音順

区民協議会の事業実施のために活用させていただきました。

おいしさを笑顔に

KIRIN

Sai 株式会社 斎テント

SASARYO 佐々良建設株式会社

JA仙台 仙台農業協同組合

松栄不動産株式会社

TAKAKO 株式会社 高工

宮城野区連合町内会長協議会

みやぎの区民協議会事務局 宮城野区役所まちづくり推進課

〒983-8601 仙台市宮城野区五輪2-12-35
Tel 291-2173 Fax 291-2371

青葉緑化工業(株) 仙台アスコン(株) (株)行方植物園
 サイト工業(株) 仙台いわきライオンズクラブ (株)ユアテック
 伸和興業(株) 仙台高砂ライオンズクラブ
 菅原動物病院 高砂地区町内会連合会

(株)アーキランド 仙台駅東口商工事業協同組合 社会医療法人康陽会 中嶋病院
 (株)秋葉造園 (株)仙台銀行 西山学区町内会連合会
 いきいき健康スマイル 仙台市歯科医師会 (株)萩野工務店
 岩切地区町内会連合会 仙台市ガス局 東七番丁北辰会
 大垣電機(株)仙台営業所 仙台市建設職組合 (株)東日本プラシス
 かつとう工業(株) 仙台市宮城野区社会福祉協議会 東仙台学区町内会連合会
 (有)加藤紅秋園 協業組合 仙台清掃公社 (株)堀越
 (株)加納工業所 仙台土木建築工業(株) 栢江学区町内会連合会
 菊田陶業(株) 仙台東地区交通安全協会 (株)丸鹿
 近代建設(株) 仙台東地区安全運転管理者会 (株)みぞい
 (有)興洋建設 仙台東地区安全運転管理者事業主会 (株)宮城テレビ放送
 今野農園 仙台東地区防犯協会連合会 宮城野一丁目親和会
 (株)サイコー 泰誠機械工業(株) 宮城野区老人クラブ連合会
 幸町学区町内会連合会 鷹鷲建設(株) 宮城野地区更生保護女性会
 幸町南学区連合町内会 タマヤ電気(株) (有)宮千代設備
 (株)サン道路サービス 燕沢学区町内会連合会 妙法産業(株)
 (株)七十七銀行 鶴ヶ谷地区連合町内会 守屋木材(株)
 新田学区連合町内会 (株)東北造園 R45・日の出自動車学校
 新宮城野原JRアパート町内会 トーシンフードサービス(株)

名義後援：区民の手作りによるまちづくり活動等に対して名義後援を行います。
 会員登録：会の目的に賛同し、宮城野区を中心として活動する団体の登録を募集しております。

トピックス

◆ 欲しい暮らしを自分たちで描こう！

みやぎの塾 小畑 文平 ◆

宮城野区に住み、子供を育て、働く30、40代の地域の若者15人が塾生として集まり、宮城野区をもっとよくするにはどうしたらいいかを考える場が「みやぎの塾」です。「この街で何がしたいか、真っ白なスケッチブックに自由に夢を描いてみよう！」といった感じで楽しく活動しており、今私たちが描き始めたスケッチブックには、人々が気軽に集うコミュニティハウスや、人々で賑わう公園のイメージが描かれつつあります。会議室で議論するだけでなく、実際のコミュニティハウスを訪れて運営やノウハウについて色々聞き取りをしたり、自衛隊のヘリコプターに搭乗させていただき上空からまちを見るなどして、宮城野区の暮らしの夢を膨ら

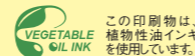
ませているところです。

「塾」と聞いて私も最初は半信半疑で参加してみたのですが、座学だけでないこのような参加型の取り組みがあるのだと初めて気づきました。塾生は、店主や企業の社長、会社員や、主婦など立場は様々で、この塾に参加しなかったらなかなか会うことのなかった方々ばかりです。さらに塾生として行政の職員の方も入っており、民間と行政とが一緒に夢を語るこの塾は素晴らしい場所だと思います。

この取り組みで、地域のみみんなで幸せを感じられるようになるといいなと、大人塾生たちが本気で絵を描いています。



イベントおよびトピックスの内容詳細は、市政だよりをご覧ください。



この印刷物は、
植物性油インキ
を使用しています。

会員活動紹介

みやぎの区民協議会の会員の活動状況についてご紹介します

鶴ヶ谷団地の今昔

鶴ヶ谷地区町内会連合会 会長 樋口 幸二郎

鶴ヶ谷団地の造成は、昭和40年から45年にかけて、仙台市のモデル団地化構想のもとに市の新住宅市街地開発事業として開発されました。総人口規模23,000人、6,300戸の構成として進められました。現在の人口は約13,000人で、計画当初の人口の約56%となっております。また、10年前の平成17年と比較して、人口で8%減、高齢化率は8%増となっております。人口構成は、65歳以上の比率で最も高い地区が44%、低い地区では29.5%で平均すると37.4%ですが仙台市の平均比率が21.5%なので非常に高率といえます。

しかし市の健康度調査のデータから見ると、要介護比率が非常に低くなっています。これは市民全体が健康寿命の推進運動に取り組んでいる成果と言えるのではないのでしょうか。

団地開発から約半世紀が過ぎ、都市構造の激変と住民意識の多様化に対処するためにも高齢者の一人住まい、病弱のご家族のいる方々等が孤独にならないための対策も十分に考慮する必要があります。加えて鶴ヶ谷第二、第三復興公営住宅や開発が進められている第一市営住宅の住民と従来の地域住民との交流促進も大切にしていきたいと思えます。

幸い、鶴ヶ谷市民センターが4月に新たに開館しました。ここを基軸とした市民交流の活性化が望まれるところです。

(文：前会長 遠藤 正志)



西山コミュニティ・センター 西山コミュニティ防災センター開館

西山学区町内会連合会 会長 伊藤 雄基

西山学区として、20年来の要望が実現。4月5日(火)に境洋文宮城野区長をはじめ、仙台市議会議長、市議会議員、地域関係団体代表者の皆様方のご臨席をいただいて開館式が行われ、「鍵の引き渡し」を受けました。

開館に先立ち、3月24日に西山コミュニティ・センター及び同防災センターの管理運営委員会の設立総会を開催し、西山学区各町内会、西山地域各関係団体等の構成員34名の中から西山学区町内会連合会会長が初代管理運営委員会委員長に選出されました。

開館式後、2日間の地域内覧会を開催し、来館者からは大好評を得ました。西山コミュニティ・センターの設計段階から建設委員会の要望を取り入れていただき、中庭のある明るい空間の会議室、料理教室に便利な対面式キッチン、多目的ホールには子育て中のお母さん方に安心してスポーツを楽しんでいただけるようキッズコーナーを併設しているのが特長です(バレー、バドミントン、卓球、ミニテニス等可)。宮城野区の14番目のコミュニティ・センターとして、地域の老若男女の交流の場としてご利用いただきたいと思えます。

(文：西山コミュニティ・センター管理運営委員会)



地域社会の一員としての仙台駅

東日本旅客鉄道株式会社
仙台支社 事業部長 石井 圭

3月18日、仙台駅東西自由通路は、幅が6mから16mへ、そして高さ16mの明るいガラス天井へと、東西の街をつなぐにふさわしい通路に生まれ変わりました。自由通路は仙台市様と弊社が共同で整備したのですが、これに合わせて弊社では東口改札やエスパル仙台東館を新設するとともに、これまでの駅設備や店舗ゾーンも改良を行ってまいりました。

これらの整備や開発に共通している考え方が、JR東日本グループの経営構想にあります。それは、地域社会の一員として、元気な地域を築くため、自らの使命を果たすことです。そのため、自由通路やエスパル仙台東館内において、地域の皆さまに気軽に集っていただけるベンチや屋上庭園、保育園・クリニックなどをご用意しております。また、自由通路の中央には、仙台市の木であるケヤキを植樹したほか、ガラス天井の遮光シートには仙台市の花であるハギを描いております。

工事期間中のご不便・ご迷惑をお詫びするとともに、このように新しくなった仙台駅をより一層ご愛顧いただけますよう、よろしくお願いたします。



市民の皆さまへ生涯教育の場を

東北福祉大学 学長 大谷 哲夫

平成27年4月に開設した東北福祉大学仙台駅東口キャンパスでは、通信教育部と東北福祉看護学校の学生が学んでいます。

本年2月に仙台市、河北新報社と「地域人材育成及び社会貢献事業に関する包括的連携協定」を締結しました。

7月に展示施設「TFU gallery Mini Mori」をオープンします。その一部に日本の原風景と小さな森をイメージし、芸術文化作品の展示、体験型の教育・文化催事、教育研究の催しを取り入れることで、学生のみならず広く市民の皆さまに生涯教育の場としてのキャンパス創りを目指します。

地下鉄東西線の開通など、発展著しい仙台駅東口エリアから直近という好立地にありますので、様々な場面で仙台市の発展に寄与したいと考えております。

キャンパス角には「モニュメント・希望の樹」があり、仙台駅東口キャンパス生まれのマスコットキャラクター「福丸・福姫」がお待ちしております。親しくお待ち合わせの場所として育てていただければ幸いです。



昨年度の活動報告

平成27年度講演会

「未来志向のひと・まちづくり」と題し、地下鉄東西線八木山地区まちづくり研究会A部会長の八木充幸さん、福住町町内会副会長の内内幸子さん、仙台市の市民プロジェクト推進担当部長の嶺岸裕さんによるパネルディスカッションを実施しました。(7/29実施)



第25回納涼名刺交換会

区内の団体や企業の方々が親交を深める本会は、今回も参加者が400名を超え盛大に行われました。ご当地アイドルみちのく仙台ORI☆姫隊によるパフォーマンス、協賛品によるお楽しみ大抽選会などで賑わいました。(7/29実施)



第15回みやぎの区民活動表彰

区のまちづくりに多大な貢献があった方々を納涼名刺交換会の会場で表彰し、参加された多くの皆様でお祝いしました。(7/29実施)

個人の部 赤間新次さん/伊藤正康さん/
大高和男さん/小原信行さん/
加藤豊男さん/笠原和子さん/
菅原忠一さん/鈴木百合子さん/
高森登詩恵さん/村田淑恵さん/
横田正行さん

団体の部 新田小学校 brassバンド部/
原町春まつりパレード実行委員会/
大堤町内会ボランティア

地域はっぴい子育てプロジェクト

子育てママの交流を促す事業。子育ての中で自分を見つめ直す「ママらいふ手帳講座」、体操や読み聞かせで親子がふれあう「親子・あったかフェスタ2015」、「mamma☆まつり」を開催しました。(7/2、9、7/16、11/6実施)



第27回みやぎのまつり

今回も市民団体や町内会・子供の発表のほか、ねこバス、バルーン、県内沿岸市町による復興市、木の里親などを実施しました。おまつりを通して地域の活動に目を向けるきっかけとなりました。(10/18実施)



第7回みやぎの大縁会

分野を越えた区民が懇談する「みやぎの大縁会」。今回は「みんなで知ろう!!「地元」」をテーマに、防災・減災サポートセンターの協力のもと講話や地形区分図の作成を通じて地域を見直し災害への備えについて理解を深めました。(3/6実施)

